

「指導計画の作成と内容の取扱い」について考える ⑥

「材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、
必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、
その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。～第1学年及び第2学年～

第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いることとし、児童がこれらに十分になれることができるようにすること。

この事項は、取り扱う材料や用具について示しています。
それぞれの発達段階を中心に使用することを基本としながら、必要に応じて当該学年より前の学年において、初歩的な形で取り上げ指導することができることを示しています。また、その後の学年で繰り返し取り上げるようにし、材料や用具を使ったり生かしたりする経験を重ねながら、児童がそれらの適切な扱いに慣れるようにすることを示しています。

第1学年及び第2学年では、この時期の児童が身近で扱いやすく、数や量を集める場合にも入手しやすいものを示しています。

土、粘土、木、紙は体全体でかかわる

「土、粘土、木、紙」は、児童が興味や関心などをもち、体全体でかかわることができる材料として示しています。土には、山や田の土、砂場の砂など、児童に身近なものが考えられます。粘土には、土粘土、油粘土、紙粘土などのいろいろな種類が考えられます。低学年では両手を十分に働かせ、感触や手ごたえを楽しめるような土粘土に親しませることが重要です。木には、枝、根っこ、木片、おがくずなどがあります。紙には、画用紙や厚紙、新聞紙や段ボール、大きな包装紙などの児童が扱いやすい材料が考えられます。

クレヨン、パスは、材料としても扱うことができる

クレヨンはろうの成分が多く使われているために硬く、細い線を描くのに適しています。パスは、油性の成分が多く使われているのでクレヨンより柔らかく、重ね塗りに適しています。また、重ね塗りした上から引っ掻いて描くスクラッチという技法に用いるのにも適しています。どちらも描画材としては用具ですが、それ自体を形や色をもつ材料のひとつとしてとらえ、造形遊び、絵や立体、工作に表す際に用いることも考えられます。

はさみ、のり、粘着テープ、カッターナイフ、小刀、を目的や用途に応じて

「はさみ、のり」は、切断や接着する用具として示しています。その他に粘着テープなども考えられます。「簡単な小刀類」は、厚紙を切るための扱いやすいカッターナイフや、木の枝などを少しずつ削ったりできるような児童の手に合った安全な小刀などのことです。その他に小物や布切れ、小石、貝殻、共用の水彩絵の具や安全な接着剤なども考えられます。

児童がこれらに十分に慣れることができるようにする、とは

「児童がこれらに十分に慣れることができるようにする」とは、この学年においては、材料や用具の安全な使い方に気を付けながら、その扱いに慣れるようにすることが大切であることを示しています。

指導に当たっては、材料や用具の準備について、児童のそれまでの経験に配慮するとともに、題材の内容や指導のねらいに応じて、種類や範囲、数量を変えるなどして、児童が基本的な扱い方に興味をもつようにする必要があります。(※小学校学習指導要領解説図画工作編他を参考にしています。)



今回は、「指導計画作成上の配慮事項」の2の(3)『材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。』の第3学年及び第4学年について、考えてみます。

1月10日（金）頃アップの予定です。